point

株式会社ポイント
〒104-0028　東京都中央区八重洲二丁目7番2号　八重洲三井ビルディング10階
Tel. 03-3243-6011 Fax. 03-3243-6022
http://www.point.co.jp/

2011

POINT REPORT

第61期 年次報告書　2010.3.1～2011.2.28

point

企業理念 PHILOSOPHY

ワクワクするライフスタイルを創造し、
“なくてはならぬ”企業となる。

目指す姿 VISION

ファッション市場において
世界で躍進する企業・ブランドに成長する。

スローガン

enjoy?

コーポレートアイデンティティ

私たちは、ファッションを通じて
すべての人にenjoyすることを提案します。

※ 当社グループは、2011年2月に、新たな企業理念・ビジョンを定めました。企業理念は、当社グループが社会においてどのような存在でありたいかを宣誓するとともに、あらゆる判断・行動の拠り所となる普遍的な信念・価値観であり、ビジョンは目指している方向性、将来のありたい姿を表明したものです。

株主の皆様へ To Our Shareholders

代表取締役会長兼社長
福田 三千男

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
本年3月の東日本大震災により、被災されました皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、当社の第61期（2010年3月1日から2011年2月28日まで）における事業のご報告をするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

2011年3月11日に発生いたしました東日本大震災により、当社におきましては、幸い社員やアルバイトスタッフへの人的被害はございませんでしたが、被災地の店舗において、商品の落下や入居している建物の損傷等の被害が発生したほか、東北地方を中心にライフラインが遮断された地域、立入制限等の規制がなされた地域で、一部の店舗が営業停止となりました。
このような状況の中、当社の役割は、日本の復興のために「ファッションを通じて日本を元気にする」ことであると考え、社員一同全力を挙げてお客様に喜んでいただける商品を提供することに邁進いたしております。また、ささやかではありますが、甚大な被害にみまわれた地域の被災者の方々に対する義援金及び支援物資を提供させていただくことといたしました。

プラットフォームの転換を目指し、新たな取り組みにチャレンジしました。

当社グループの属するカジュアルウェア市場におきましては、雇用・所得環境は厳しい中にも幾分和らぎをみせ始めたものの、消費者の生活防衛意識の高まりや低価格志向の動きから、消費は低迷状況が続いております。また、外資系企業を含めた同業他社との競争激化や原材料価格の高騰、中国の経済的成長に伴う労働力不足など、グローバル化の進展による影響が顕著となっております。このようなビジネス環境の変化に迅速・柔軟に対応し、市場としても、生産面においても、より一層世界を意識した戦略を展開していくことが今後の成長に繋がるものと考えております。
このような認識の下、経営基盤（プラットフォーム）の転換を進め、そのための投資を行っていくという方針を打ち出しました。その方針に沿って、当期は既存ブランドで、複数のブランドによる大型店を出店したほか、エキナカ業態など派生ブランドの展開によって顧客層の拡大を図りました。また、生産本部を新設し、商品企画機能と生産管理体制の強化を進めました。さらに、新ブランドの展開、「コレクトポイント」ブランドの展開開始、上海での大型店出店など、将来の成長のためのマーケット開拓を積極的に行いました。組織力の強化という点では、新規事業・生産本部を中心として人材の積極採用を進めました。
以上の取り組みの結果、売上高は1,058億93百万円（前期比8.4%増）と1,000億円を突破いたしました。利益面につきましては積極的な店舗展開や将来の成長に向けた投資増に伴い、営業利益153億29百万円（同9.3%減）、経常利益155億4百万円（同9.1%減）、当期純利益84億円（同11.7%減）となりました。

今後のさらなる飛躍に向けて企業体質を強化します。

第62期につきましては、東日本大震災による厳しい状況を乗り越え、次期中期経営計画での飛躍に向けて企業体質を強化いたします。また、震災の影響は日々変化していくものであり、環境の変化に合わせた機動的な対応が重要であると考えております。よって、投資及び経費計画につきましては、厳選して実施し、経営資源の選択と集中を図る考えです。具体的な施策としては、大型店舗の積極的な展開や広告宣伝の強化、WEB事業の強化による既存ブランドの業容拡大を継続するとともに、生産本部による商品企画機能の確立によってビジネスモデルの強化を図ります。また、新ブランドの展開や海外でのブランド認知度向上によって将来に向けた新たなマーケットの開拓を進めてまいります。
当社グループは、第62期のスタートに際し、新たな企業理念・ビジョンを定めました。「ワクワクするライフスタイルを創造し、“なくてはならぬ”企業となる。」という企業理念には、日常生活が楽しくなるワクワクを創造していく、社会にとってかけがえのない存在でありたい、という想いを込めております。さらに、ビジョンとして「ファッション市場において世界で躍進する企業・ブランドに成長する。」を掲げました。当社グループは、日本のみならず世界において、より多くの人にワクワクを提供する存在になるために、広くファッション市場において世界で躍進する企業・ブランドに成長していきたいと考えております。
株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

経営基盤（プラットフォーム）の転換を図ることを目指し、様々な取り組みにチャレンジしました。

当期は、既存ブランドの成長と変革による業容拡大を図るために、大型店による出店や新たなチャネルへの出店、派生ブランドの展開を行いました。また、生産本部を設置することにより、商品企画機能の強化による商品価値の向上や、生産管理体制の確立による商品の安定調達を図るなど、着実にビジネスモデルの強化を進めています。さらに、新ブランドの積極的な開発や「コレクトポイント」ブランドの展開開始、上海を中心とした海外における積極展開によって新たなマーケットの開拓を進めるなど、様々な取り組みを通じて経営基盤（プラットフォーム）の転換を図り、さらなる成長を目指したチャレンジを続けています。

01 大型複合店の出店や派生ブランドの展開による業容の拡大

グローバルワーク木曽川キリオ店

当期は、既存ブランドの成長を図るため、様々な取り組みを始めました。
中でも、2010年10月に出店した「グローバルワーク木曽川キリオ店」は、グローバルワーク、レプシィムローリーズファーム、インメルカートの3ブランド複合店舗として出店し、好調なスタートを切っています。
派生ブランドとしては、ローリーズファーム　プラスが、ローリーズファームの人気アイテムに加え、オリジナルの雑貨・アクセサリー・コスメも展開するエキナカ業態として、2010年12月にJR上野駅構内「エキュート上野」にオープンしました。
また、ハレの女性向け派生ブランドとして、ハレレディスをスタートさせるなど、既存ブランドの顧客層の拡大を進めています。

02 生産本部の設置によるビジネスモデルの強化

2010年9月1日付けで、新たに生産本部を設置し、自社商品企画機能の確立と生産管理体制の強化を図っております。
自社商品企画機能の確立については、デザイナーやパタンナーを採用し、オリジナル商品の開発力を強化して独自性と商品価値の一層の向上を進めております。
また、生産管理体制については、お取引先との協働体制の強化を図り、ブランド横断的な素材集約や素材開発、優良工場の確保などによって安定調達・品質向上を実現するとともに、スケールメリットの享受を目指しています。
2011年3月からは、生産本部を生産管理部・商品企画部・雑貨企画部の三部体制とし、雑貨を含めてさらに商品企画力を強化する体制を整えました。
今後はオリジナル商品を拡充し、従来のビジネスモデルのさらなる強化を図ってまいります。

03 新ブランドの展開による新たなマーケットの開拓

当期は、将来の成長に向けて新たなマーケットを開拓するために、新ブランドの展開を積極的に推進しました。
13歳～17歳の女の子をターゲットにしたレピピアルマリオの本格展開を開始したほか、2010年10月には、20歳代の女性をターゲットとしたジュエリウムの出店を開始しました。
2011年2月には、25歳～30歳代のOL層を対象とした百貨店ブランド、トゥールノジーナをスタートし、都会的な雰囲気にイタリアンテイストをミックスした女性らしいスタイルを提案しています。
さらに、3月に20歳代の男女をターゲットとし、クールで色気のあるカジュアルスタイルを表現するナッシュダレックをスタートするなど、年齢層やテイストの異なった幅広いニーズに対応するブランドを開発するとともに、既存のブランドの出店ロケーションとは異なる、百貨店などのチャネルでの出店を行い、新たな顧客層の獲得を目指しています。

04 上海の大型店が順調にスタート

2009年10月から出店を開始した上海においては、2010年9月に「ガンフィ店」(100坪)、同12月に「龍之夢(ロンチーモン)店」(160坪)と、100坪を超える大型店を出店し、これを契機に上海地区における認知度が向上しました。
また、香港においても既存店が大きく伸長するなど、好調に推移しています。

コレクトポイント ロンチーモン店

05 様々な販売促進活動を展開

当社は従来、主にファッション雑誌を中心とした広告宣伝を行ってきましたが、利用者が急増している「ツイッター」や「ブログ」などインターネット上での販売促進活動を強化しています。さらに、2011年3月には主力ブランド「ローリーズファーム」初のテレビコマーシャルをオンエアしました。今後も様々な販売促進活動を展開し、さらなるブランドの認知度向上、販売力向上に繋げてまいります。

仲里依紗さんを起用したビジュアル

06 ポイントオフィシャル EC SHOPを全面リニューアル

当社が運営するオフィシャルEC SHOPを2011年2月9日に全面リニューアルしました。
オフィシャルEC SHOPでは、11ブランドを展開し、年間約50万人のお客様にご愛用いただいています。今回のリニューアルでは、過去にお買上げいただいた商品の閲覧、その商品に合わせたスタイリングメールの配信、検索機能の拡充など、お客様の利便性を高めるとともに、お買上げいただいた後も各ブランドとのつながりを深めていただける機能を追加しました。

07 等身大のCSR活動を継続

当社は、このたびの東日本大震災により、甚大な被害にみまわれた被災者の方々や、被災地への復興支援のために、2011年3月19日から5月8日までの売上金の1%(約1億5,000万円)を、さらに義援金として1,000万円を、日本赤十字社などを通じて寄付することといたしました。また、当社衣料5,000点を寄贈いたしました。
その他、サンプルセール代金の寄付、学生を招いた職場体験会の開催など、身近なところから始める「等身大」のCSR(企業の社会的責任)活動を継続して行っています。

当期も職場体験会を行うなど、
継続的なCSR活動を展開しました。

財務ハイライト(連結) Financial Highlights(Consolidated)

売 上 高

経常利益・当期純利益

総資産・純資産

ROE・ROA

BPS・EPS

店 舗 数

連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

連結損益計算書（要旨）

（単位:百万円）

科　目	当期（2010年3月1日～2011年2月28日）	前期（2009年3月1日～2010年2月28日）
売上高	105,893	97,684
売上原価	42,533	38,570
売上総利益	63,360	59,113
販売費及び一般管理費	48,030	42,203
営業利益	15,329	16,910
営業外収益	187	220
営業外費用	13	72
経常利益	15,504	17,058
特別利益	1	152
特別損失	1,259	1,090
税金等調整前当期純利益	14,246	16,120
法人税、住民税及び事業税	6,341	6,519
法人税等調整額	△ 538	72
少数株主利益	43	11
当期純利益	8,400	9,516

特別損失

固定資産除却損、店舗の賃借契約解約に伴う損失、減損損失、資産除去債務会計基準適用に伴う影響額、Tポイントプログラムの中途解約損を計上しました。

退店

店舗戦略の見直しなどにより、個々に十分な検討を行った結果、23店舗の退店を行いました。

改装

当期も、店舗鮮度維持、ブランド価値向上を狙って、54店舗の改装を行いました。

ローリーズファーム金沢フォーラス店
（2011年2月リニューアル）

減損損失

一定の基準に基づき、減損損失を計上しています。当期は13店舗が対象となり、142百万円を計上しました。

売上総利益の状況

値下げ販売の増加やTポイントカード導入により、前期比で0.7ポイントの低下となりました。

■ 売上総利益率

販売費及び一般管理費の状況

店舗内装等の取得方法変更による影響、資産除去債務の早期適用に伴う影響、社員の処遇改善や外部人材の採用などの積極的な人材投資により販売管理費比率は増加しました。

■ 販売管理費比率

積極的な出店を行い、売上高が1,000億円を突破しました。

当期の国内既存店売上高は、個人消費の冷え込みや天候不順の影響もあり、前期比96.3%となりましたが、連結売上高は海外の売上増や国内新店の寄与などもあり、前期比8.4%増の1,058億93百万円と、1,000億円を突破しました。

店舗展開については、引き続き積極的に出店を行いました。

当期末時点での国内店舗数は102店舗の出店、23店舗の退店の結果、706店舗となりました。なお、大型複合店舗のコレクトポイントは、原宿に続き新宿にも旗艦店を出店するなどの展開を行った結果、当期末時点での国内店舗数は6店舗となりました。

海外店舗については、上海における出店を本格化させ、台湾と上海に各5店舗を出店した結果、台湾22店舗、香港13店舗、上海6店舗となりました。これらの結果、当期末時点での海外店舗数は41店舗となり、国内外店舗数は747店舗となりました。

■ 国内売上高・店舗数の推移

※店舗には、他社及び自社のEコマースサイトを含んでおります。

レプシィムローリーズファームが売上高100億円を超えるブランドとなりました。

国内においては、引き続きローリーズファームとグローバルワークが200億円を超える売上高を維持しました。さらに、ジーナシスとレプシィムローリーズファームを加えて4つのブランドが100億円を超える売上高となりました。特に、レプシィムローリーズファームが前期比23.2%増と大きな成長を遂げました。また、海外においては、香港を中心に好調に推移し、海外合計の売上高は前期比32.7%増となる26億59百万円となりました。

■ ブランド別売上高の推移（国内）

連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期（2011年2月28日現在）	前期（2010年2月28日現在）
●資産の部		
流動資産	38,579	35,839
現金及び預金	13,164	15,213
売掛金	4,476	4,016
有価証券	12,997	11,497
商品	6,480	3,662
その他	1,497	1,505
貸倒引当金	△ 37	△ 56
固定資産	23,510	19,820
有形固定資産	8,677	6,206
無形固定資産	783	561
投資その他の資産	14,048	13,052
投資有価証券	2,215	2,101
敷金及び保証金	10,450	9,866
その他	1,747	1,242
貸倒引当金	△ 364	△ 158
資産合計	62,089	55,660
●負債の部		
流動負債	23,877	21,478
買掛金	14,792	11,945
未払金	4,767	4,709
未払法人税等	3,179	3,358
賞与引当金	1,002	1,316
その他	134	147
固定負債	881	484
賞与引当金	580	280
役員賞与引当金	136	54
役員退職慰労引当金	101	101
その他	63	48
負債合計	24,758	21,962
●純資産の部		
株主資本	37,138	33,544
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	2,517	2,517
利益剰余金	34,201	37,044
自己株式	△ 2,241	△ 8,677
評価・換算差額等	△ 28	△ 23
新株予約権	46	24
少数株主持分	174	152
純資産合計	37,330	33,698
負債及び純資産合計	62,089	55,660

有価証券
短期運用としてコマーシャル・ペーパー、国債を購入しています。

商品
春物在庫の前倒し入荷もあり、在庫が大きく増加しました。なお、前シーズンの残在庫は、アウトレットの消化能力に対して問題のない水準となっています。

有形固定資産
店舗内装等について、前期より従来のリースから固定資産計上に変更しています。

敷金及び保証金
国内店舗数が増加したことに伴い、出店時にデベロッパーへ預け入れる敷金及び保証金が増加しています。

自己株式
2010年8月に自己株式1,590,720株を消却し、同10月に570,000株を取得しました。

純資産
毎期着実に純資産の積み上げを図っています。

■ 純資産／自己資本比率

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期（2010年3月1日～2011年2月28日）	前期（2009年3月1日～2010年2月28日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,531	12,722
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,699	△ 4,230
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,805	△ 2,606
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 76	12
現金及び現金同等物の増減額（減少:△）	△ 49	5,897
現金及び現金同等物の期首残高	26,200	20,302
現金及び現金同等物の期末残高	26,151	26,200

投資活動によるキャッシュ・フロー
新物流センターの建設、出店数の増加によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー
増配に伴う配当金支払の増加及び自己株式の取得によるものです。

連結株主資本等変動計算書（要旨） 当期（2010年3月1日～2011年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
前期末残高	2,660	2,517	37,044	△ 8,677	33,544	△ 23	24	152	33,698
当期変動額									
剰余金の配当			△ 2,919		△ 2,919	—			△ 2,919
当期純利益			8,400		8,400	—			8,400
自己株式の取得				△ 1,885	△ 1,885	—			△ 1,885
自己株式の消却			△ 8,322	8,322	—	—			—
その他			△ 0		△ 0	—			△ 0
株主資本以外の項目の当期中の変動額（純額）					—	△ 5	22	21	38
当期変動額合計	—	—	△ 2,842	6,436	3,594	△ 5	22	21	3,632
当期末残高	2,660	2,517	34,201	△ 2,241	37,138	△ 28	46	174	37,330

経営方針

● ファッションを通じて日本を元気にします。
● 震災による厳しい状況を乗り越え、次期中期経営計画での飛躍に向けた強い企業体質を構築します。

▶外部環境の変化に合わせた機動的な対応を行います。
▶投資・経費については厳選のうえ実施します。
▶商品企画機能の強化を重点課題として推進します。

営業戦略

Strategy 1
既存ブランドの成長と変革による業容拡大
- ブランド複合店含め大型店舗の積極展開
- 広告宣伝の積極展開(ローリーズファームテレビコマーシャル等)
- WEB事業のビジネスモデル強化とクロスマーケティングの実施

Strategy 2
ビジネスモデルの強化による永続的成長
- 生産本部による自社商品企画機能の確立と取引先との協働体制強化
- 生産本部に雑貨企画部を設置し雑貨部門を強化

Strategy 3
将来の成長に向けて新たなマーケットの開拓
- 新ブランドの展開(トゥールノジーナ、ナッシュダレック)
- 「コレクトポイント」ブランド商品の強化
- 海外でのブランド認知度向上と業容拡大

Strategy 4
積極的な人材投資による組織力強化
- 店舗をサポートする本部体制の強化(主力ブランドにおける店舗支援専門チームの設置)

株主様への還元について

利益配分について

当社は、株主の皆様に株主としてだけでなく顧客としても満足していただけるよう、魅力あるブランドの開発、商品の提供に必要な投資を行い、一層の企業価値(株主価値)の向上を図っていくことを基本方針としています。そして、株主の皆様への還元については、連結配当性向30%を基準に実施してまいります。また、自己株式の取得については、株主の皆様に対する利益還元のひとつと考えており、今後も株価の動向や財務状況等を考慮しながら適切且つ機動的に対応していく方針です。
当期の期末配当金については、1株当たり70円とさせていただくことといたしました。この結果、中間配当金の50円と合わせ、年間配当は1株当たり120円となります。年間の連結配当性向は34.5%となります。

■ 配当金の推移

株主優待制度のご案内

株主の皆様には、株主であると同時に当社商品のファンであって欲しいという思いから、当社の株主優待制度は、商品引換券といたしております。当社株式をご所有の株主の皆様に、下記内容にて全国の当社店舗でご利用可能な商品引換券を贈呈させていただいております。
(権利確定日:2月末)

所有株式数	商品引換券贈呈額
10株以上100株未満	2,000円
100株以上1,000株未満	5,000円
1,000株以上5,000株未満	10,000円
5,000株以上	20,000円

経営報告会を開催し、事業展開をご説明いたしました。

当社では、株主の皆様に当社の経営陣から経営方針・事業計画進捗状況等をご報告させていただくとともに、株主の皆様からのご意見を直接頂戴する貴重な場として、経営報告会を開催しております。
より多くの株主の皆様との交流を図るため、当期は2010年11月の週末に東京と大阪の会場にて開催いたしました。

会社概要（2011年2月28日現在） Company Outline

■会社概要

会社名	株式会社ポイント
本部	東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階
代表電話	03-3243-6011
設立	1953年10月
資本金	2,660百万円
代表者	代表取締役会長兼社長　福田　三千男
事業内容	カジュアルウェア専門店チェーン
事業所	水戸本店　　東京本部　　国内店舗数　706店舗
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行　常陽銀行
社員数	正社員1,844名
平均年齢	28.3歳

■取締役・監査役（2011年5月26日現在）

代表取締役会長兼社長	福田　三千男
代表取締役専務執行役員	遠藤　洋一
取締役専務執行役員	久保木　大世
取締役常務執行役員	櫻井　健一
取締役常務執行役員	時松　克治
取締役常務執行役員	松田　毅
取締役常務執行役員	五十嵐　俊弘
取締役常務執行役員	浅井　英成
取締役	加藤　章
常勤監査役	新名　宏志
監査役	横山　哲郎
監査役	前川　渡
監査役	髙橋　惇

※取締役のうち、加藤章は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
※監査役のうち、新名宏志、横山哲郎、前川渡は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■連結子会社

株式会社ポジック

資本金	10百万円
当社の出資比率	100%
主な事業内容	当社取扱商品の物流業務
事業所	水戸物流センター、福岡物流センター、茨城西物流センター

波茵特股份有限公司

資本金	10百万台湾ドル
当社の出資比率	100%
主な事業内容	台湾における衣料販売業務
事業所	台北本部　台湾店舗数 22店舗

POINT HOLDING CO., LTD

資本金	48百万香港ドル
当社の出資比率	75%
主な事業内容	香港における衣料販売業務
事業所	香港本部　香港店舗数 13店舗

方針（上海）商貿有限公司

資本金	23百万香港ドル
出資者	POINT HOLDING CO., LTD 100% ※POINT HOLDING CO., LTDは当社75%出資会社です。
主な事業内容	中国における衣料販売業務
事業所	上海本部　上海店舗数 6店舗

株式情報（2011年2月28日現在） Stock Information

■株式の状況

発行可能株式総数……50,000,000株
発行済株式の総数……24,400,000株
株主数……20,855名

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
株式会社テツカンパニー	2,244	9.4
株式会社武平	1,500	6.3
株式会社月岡	1,500	6.3
株式会社フクゾウ	1,418	6.0
福田　三千男	1,219	5.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	932	3.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	910	3.8
ビービエイチ マシューズ アジア デイビデンド フアンド	908	3.8
株式会社良品計画	554	2.3
ドイツ証券株式会社	544	2.3

※持株比率は自己株式（637,885株）を控除して計算しております。

■所有者別株式数分布状況

※金融機関には金融商品取引業者を含みます。

■株価・売買高の推移

■株主メモ

事業年度	3月1日～翌年2月末日
期末配当金受領株主確定日	2月末日
中間配当金受領株主確定日	8月31日
定時株主総会	毎年5月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.point.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。）

（ご注意）
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

詳細な財務データはホームページにも掲載しておりますのでご利用ください。

当社のホームページでは、ブランド紹介のほか、店舗情報、プレスリリース、企業情報、株主・投資家情報など、当社に関する各種情報を公開しています。特に、株主の皆様、投資家の皆様へのきめ細かな情報提供を目指し、IRニュースや売上速報などの迅速な情報開示や、動画による説明会の模様の配信など多彩なコンテンツをそろえておりますので、是非ご活用ください。

http://www.point.co.jp/